

間違った選択をし続けて

Y・S 会社員(28歳)

私が事件を起こしたのは、ある年の5月、ゴールデンウィークの朝でした。

私は事件を起こす前日の夜9時頃から友人達と食事を楽しみながらお酒を飲んでいました。

普段、お酒を飲むことが分かってはいる時はタクシーで行くのですが、ゴールデンウィークということもあり、タクシーを呼んでも来るのが遅いため、私は、帰りは代行を使えば大丈夫だと思いき自分の車で行くことにしました。

そして、1軒目のお店を出て2軒目、3軒目と飲み歩きしました。お店を出る度に「これで帰る」と言いましたが、「もう一軒だけ」と誘われ、断われず、何軒もはしごをしてしまいました。今思えば、何度も帰ることが出来たのにそれをすることが出来ず、

丈夫」と自分勝手な判断をしてしまったのです。運転中も強い睡魔に何度も襲われました。その度に運転を止めるという選択をすることができたのに、それを選ぶことが出来ませんでした。走り慣れた道までたどり着き、「もう少しで家だな」と安心し始めた時、ついにその時はきました。

穏やかなカーブを曲がり、長い直線道路に入った瞬間から事件を起こすまでの記憶が私にはありません。気がついた時には、対向車線を大きく超えて歩道の方まで車は進んでいました。フロントガラスは蜘蛛の巣状になって一部分は穴が開いていました。急いで事件を起こした現場までUターンし車から降りると、そこには男の人が倒れていました。急いで近寄り、声を掛けましたが、意識はなく頭から血も出ていました。「救急車と警察に連絡しないと」と思ったのですが、私の後を走行していたタクシーの運転手さんがすぐに

連絡をしてくれていたため、救急車と警察官がすぐに来ました。被害者は救急車で病院に搬送される一方、私はその場で現行犯逮捕されました。

その後、警察の取調べ中に被害者が亡くなられたことを知らされました。私はこれまでニュースなどで飲酒運転による事件はマスコミに報道されることは知っていませんし、会社でも絶対にしないように言われていました。

しかし、今となっては考えてみると、それまでどこか他人事と思っていて、自分が事件を起こすなんてありません。その結果、危険運転致死罪で懲役3年の判決を受け、受刑生活を送っています。

私自身まだ被害者ご遺族への謝罪をしていません。身柄を拘束され、そのまま受刑生活を送っている私に代わり、両親が被害者ご遺族に謝罪をしてくれています。

私は市原刑務所での生活

を通じて、自身の起こした事件と真剣に向き合い生活を送っています。被害者の方や、被害者ご遺族、そして今も私を支えてくれている人達が今の私の受刑生活を見てどう思うかと考え、それを裏切らないよう心掛けて生活しているつもりです。そして、事件と向き合い続けて生活することで多くのことを学んでいます。まだまだ足りないところだらけです。それでも二度と同じ過ちを犯さず、他人に迷惑を掛けない、それだけはしっかりと身に付け、社会復帰が出来たらと思っています。

私が死ぬその時まで、事故のことを忘れずに向き合い、私に出来る最大限のことをご遺族に続けて生きていきます。

「贖いの日々」第54集より
抜粋
転載・二次使用を禁止します。

「贖いの日々」第54集より
抜粋
転載・二次使用を禁止します。

「贖いの日々」第54集より
抜粋
転載・二次使用を禁止します。